学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
東京都豊島区目白1丁目5番1号
電話(3986)0221内線2607
発行・編集人　古屋祐三
年間300円

第26回大学祭開かれる

秋晴れの下 大いに賑わう

第二十六回学習院大学祭が、十一月一日から五日まで開催された。連日晴天が功を奏し、一般客の来場も多く、賑わいをみせた。

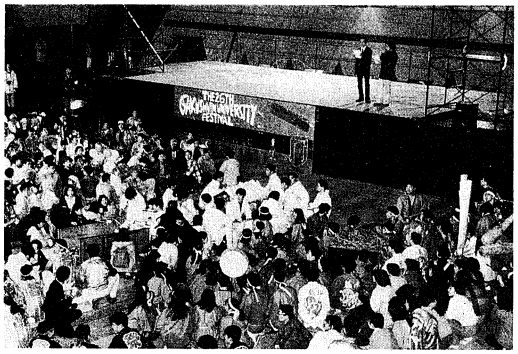
十一月二日から五日まで、第二十六回学習院大学祭が開催された。テーマ「こちら稀少動物保護地帯～おぼっちゃまで思い」。期間中は連日快天に恵まれ、さらに祝日～土曜～日、と続いたことも加わって、今年の大学祭は、例年より一層賑わいを見せた。

大学祭に先駆けて、一日、十五団体、その中には、熱意のこもった展示や華やかな舞台、迫力のあるアトラクションなどが、数多く見られた。

出店の数は、昨年の六十九から減少して六十二店となったものの、学内には多くの人があふれ、祭気は盛り上がった。

そのほか、有名アーチスト、人気のコンサートや、著名人の講演会など、大きなイベントも催され、大学祭は、二日、三日、五日にわたった後夜祭で、閉会宣言の後、音楽サークルが盛大に演奏を披露した。今年の大学祭は、盛況のうちに幕を閉じた。

（二・三面で特集記事）



神輿（みこし）提灯行列を待つ前夜祭＝11月1日、中央教室前にて

この前夜祭での、大学祭実行委員会客員会長小林哲さん（教三）の開会宣言により、大学祭が幕開けとなる。

続いて毎年恒例の神輿（みこし）提灯行列が、学内を練り歩いた。

今年の参加団体数は、昨年の百二十団体より多い百二十五団体。その中には、熱意のこもった展示や華やかな舞台、迫力のあるアトラクションなどが、数多く見られた。

今年の参加団体数は、昨年の百二十団体より多い百二十五団体。その中には、熱意のこもった展示や華やかな舞台、迫力のあるアトラクションなどが、数多く見られた。

出店の数は、昨年の六十九から減少して六十二店となったものの、学内には多くの人があふれ、祭気は盛り上がった。

そのほか、有名アーチスト、人気のコンサートや、著名人の講演会など、大きなイベントも催され、大学祭は、二日、三日、五日にわたった後夜祭で、閉会宣言の後、音楽サークルが盛大に演奏を披露した。今年の大学祭は、盛況のうちに幕を閉じた。

（二・三面で特集記事）

小倉学長、就任

本紙に抱負を語る

小倉芳彦学長

十月四日の第二次学長選挙で、小倉芳彦文学部長が選出された。十月十一日、学習院大学の学長に就任した。本紙は就任当日、小倉学長にインタビューを行なった。

小倉学長は、「単に受け身になって要求されるだけでは、学習院大学が、どうなるか、思うことを実行しなければならない」と抱負を述べ、「服を固めた胸のうちを明らかにした。

大学がどうなるかは、「学習院大学が、どうあらねばならないことになるのか、という認識が各学者にはある」と変化の必要性を訴えた。

その際、「学習院の名前は立派で、重い伝統があるが、重さを活かし、どこに特色を持たせるのかが課題だ」としている。

「学習院二十一世紀計画（第2期計画）～九九五年度～一九九七年度」については、「学校法人として方向づけているものである」とし、具体的な問題点は避けた。

その上で、資金面からの考慮も必要であるとした。

受賞した、同賞は読売新聞社が今年新創設したもので、主道英政治学科助教授の論文「考える日本」が優秀賞を受賞した。

村主助教授の論文は、「学校法人の運営問題」を対象としている。

論文の内容は、「現在の国際学術論を批判し、あるべき国際貢献のあり方を述べたもの。

村主助教授の論文は、「学生などの論文を対象としている。

村主助教授は、「現在の国際学術論を批判し、あるべき国際貢献のあり方を述べたもの。

村主助教授の論文は、「学生などの論文を対象としている。

村主助教授の論文は、「学生などの論文を対象としている。

村主助教授の論文は、「学生などの論文を対象としている

記者の眼

文化系サークルへの提言
発表形式の多角化を

山本課二に始まり、山本課二で終わる。第26回大学祭の印象を一言で表せば、このようになるのだろうか。中身を覗けば、初めて留年生が模擬店に参加する一方、能楽研究会が、恒例の「新能（たきぎのう）」を中止するなど、常に変化する大学祭を感じさせる4日間だったともいえる。

大学祭の内容を吟味する上で、これらの変化の良し悪しを、一面的に判断することはできまい。しかし、文化系サークルによる活動発表に、例年驚くのは見られないのは「驚くべき」と断言できるところだ。

一般に文化系サークルの活動発表は、それぞれの教室に、展示という形で行われている。これらの展示内容は、日常、研究発表や、好奇心からはの鋭い視点だったお研究表や、好奇心からできるであろう凝いそしむ者ならではの鋭い視点だった研究の模型など、見応値のある物ばかりだ。

だが、展示の形態は例年、ほぼ固定化されている。展示内容は、日常、研究発表や、好奇心からはの鋭い視点だったお研究表や、好奇心からできるであろう凝いそしむ者ならではの鋭い視点だった研究の模型など、見応値のある物ばかりだ。

だが、展示の形態は例年、何の変化もなく、文化系サークルによる活動発表に、例年驚くのは見られないのは「驚くべき」と断言できるところだ。

一般に文化系サークルの活動発表は、それぞれの教室に、展示という形で行われている。これらの展示内容は、日常、研究発表や、好奇心からはの鋭い視点だったお研究表や、好奇心からできるであろう凝いそしむ者ならではの鋭い視点だった研究の模型など、見応値のある物ばかりだ。

だが、展示の形態は例年、何の変化もなく、文化系サークルによる活動発表に、例年驚くのは見られないのは「驚くべき」と断言できるところだ。

展示の仕方は多様にある

質の高い展示でさえ、集客がままならない最大の理由が、展示場所の閉鎖性にある。西一号館や北一号館のそれぞれの教室には「入りにくい」、二階・三階といった場所には「行きにくい」現状がある。

大学祭全体を活性化する意味でも、主役としてなく、貴重な部役として展示を生かすことを考えてみるべきだ。

部の水族館トンネルをくぐると、学生放送局制作のビデオドラマの上映を目にする。会場の一角では、天文愛好会やコンピューター研究会などによる占いコーナーがにぎわいを見せ、向かいでは絵画研究会、鉄道研究会の同人誌が売られる。一大展覧会を見た大学祭だが、来年以降に残された課題もある。

（第二十六回大学祭取材班）

大学体育館での合同発表へ

そして、展示の地位向上の第樓の案が、大学体育館での合同展示である。西門近く位置し、入口も広く開放的な場所に順路を設けたい。内容ごと区域をわけることを提案したい。入場者は、体育館に入ると、史学部による遺跡の発掘物を見、生物部の水族館トンネルをくぐると、学生放送局制作のビデオドラマの上映を目にする。会場の一角では、天文愛好会やコンピューター研究会などによる占いコーナーがにぎわいを見せ、向かいでは絵画研究会、鉄道研究会の同人誌が売られる。一大展覧会を見た大学祭だが、来年以降に残された課題もある。

（第二十六回大学祭取材班）

ろう。

文化系サークル、そして、実委には「展示は教室をにぎやかなるべし」という固定観念からの脱却を期待したい。各サークルが最も個性を出せる場で発表を行えば良いのである。例えば、人の集まる場所に彩りをそえる意味で、講義室の壁に作品を置いたらどうだろう。

文化系サークルへの提言

第前の例に含めて、展示の地位向上に向け変化が、表面化しない理由として、文化系サークルの意識が欠如していることは否定できない。大学祭というイベントは本来、文化系サークルの活動発表の場として設られたものである。今日、それが模擬店やコンサートの発生によって多様化してしまった。展示の発展性は、大学祭の開催意義そのものにかかわってくる。

「展示場所の教室を美術に求めてもムダと聞いたことある文化系サークルは語った。自発的な意欲のうすい各団体と、大学祭の多様化によって展示だけにかかわらない実委のすれ違いが見つけられる。山本課二によって、近年まれに見る盛り上がりを見せた大学祭だが、来年以降に残された課題もある。

（第二十六回大学祭取材班）

文化系サークルの雰囲気

文化系サークルの雰囲気を、展示の地位向上に向け変化が、表面化しない理由として、文化系サークルの意識が欠如していることは否定できない。大学祭というイベントは本来、文化系サークルの活動発表の場として設られたものである。今日、それが模擬店やコンサートの発生によって多様化してしまった。展示の発展性は、大学祭の開催意義そのものにかかわってくる。

「展示場所の教室を美術に求めてもムダと聞いたことある文化系サークルは語った。自発的な意欲のうすい各団体と、大学祭の多様化によって展示だけにかかわらない実委のすれ違いが見つけられる。山本課二によって、近年まれに見る盛り上がりを見せた大学祭だが、来年以降に残された課題もある。

（第二十六回大学祭取材班）

文化系サークルの中には、自分達の個性を生かすために、合同展示が向かない団体もあること。合同展示が完全無欠な形とはいえないが、「見る者の興味感」と「作り手の考の達成感」の両面を引き出せることは確かである。

文化系サークルへの提言

前の例に含めて、展示の地位向上に向け変化が、表面化しない理由として、文化系サークルの意識が欠如していることは否定できない。大学祭というイベントは本来、文化系サークルの活動発表の場として設られたものである。今日、それが模擬店やコンサートの発生によって多様化してしまった。展示の発展性は、大学祭の開催意義そのものにかかわってくる。

「展示場所の教室を美術に求めてもムダと聞いたことある文化系サークルは語った。自発的な意欲のうすい各団体と、大学祭の多様化によって展示だけにかかわらない実委のすれ違いが見つけられる。山本課二によって、近年まれに見る盛り上がりを見せた大学祭だが、来年以降に残された課題もある。

（第二十六回大学祭取材班）

大学祭にコンサートが定着したわけ

今年も学習院大学大学祭において三つのコンサートがおこなわれた、今や大学祭にコンサートありきというのは通念になっている。ここまで大学祭に根付き、学生の心に浸透してきた要因は何なのだろうか。大学祭コンサートがもたらす利潤は、金銭面からメディアによる宣伝に至るまで多岐に渡っている。その一方、大学祭でコンサートを行わない大学も多々ある。それは何故なのか、今後の大学祭におけるコンサートのありかたについて考察してみた。

大学祭実行委員会におけるコンサートの意義

大学祭実行委員会のイベントによって、より多くの人に大学祭に来てもらおうとコンサートの「つどい」でコンサートがあるのは先ず、各いろわけだ。

また大学祭の運営費を稼ぐためにコンサートを収入ようだ。それは「集客」で部のつどいとして捕らえられ社会の注目を集める」ある場合もある。

しかし、赤字覚悟でコンサートをおこなっている大学もある。本学でもコンサート会場の百周年記念会館の収容人数が一一八〇人と少ない上に、チケット価格を安く抑えている。そのため、コンサートのみでは採算がとれない。

その上、次のような危険もはらんでいる。それは、コンサートの交渉の期限が半年前であるため、半年後人気の下落したアーティストを呼んで、不利益を被ることにな

展示 文化系サークルの集大成を見る

THE 26TH GAKUSHUIN UNIVERSITY FESTIVAL

今回は、大学祭の数多くのイベントの中から〝展示〟にスポットをあてる。展示とは、各団体の日頃の活動や研究の成果を、室内の一定の空間で表現するというもの。存在は地味だが、じっくり見ると、内容の充実したものも多い。ここでは、4つの項目に分け、今年の展示を紹介していく。

手の込んだ模型

大学祭に向けて、日数をかけ、手の込んだ模型を展示していたニサークルを取りあげる。

史学部の考古班は今年の夏、熊川家床が建立したとされる御和御殿（御和市常盤の常然公園内）の存在を裏付ける遺構、掘跡を発掘。展示には出土した当時の選跡がそで触れられるよう並べていた。また、過去五年間発掘して明らかにした千葉御茶屋御殿の全体像を模型で復元。全ワープロで作成したパネルも設置した。博物館さながらの出来栄えであった。（西一一三〇四・三〇五）

一方、鉄道研究会は伊豆箱根鉄道の路線を模型で再現した。沿線にある山や温泉の作成は発泡スチロールなどを用いた苦の細かいもの。特に子供に人気が高く、三〇〇も見入る姿も見受けられた。パネルの写真が数多くはられていた。（西一一〇四）

美術史研究会が作った模型は世界地図、シルクロードなどの道筋に配置されたランプが点灯する仕組みになっていた。また、インドネシアで絵絵として使われる（西一三〇九・三一〇）

会展（共）も展示されていた。

観光事業研究部では、能登半島の五、六種類の地酒を、サービス精神旺盛な部員が自らつくれた。そのほかとんど資料を見ず、部員それぞれの酒についての一家言という、ドームの中は自分の中で話が進んだ。（西一一〇六）

探検クラブは、訪れた客に今年の夏の北アルプス縦断な、普段の合宿のことを熱く語ってくれた。その場の雰囲気が伝わってくると、そこは他、四年ほど前に発見した手ぶら弾や力メ」も展示してあって興味深かった。（西一一〇七）

囲碁部では、一般の人が碁盤を囲んで、部員と一対一で対局することもあるなどうこと。それは、展示を見に行ってサークルをとり組むことによって生まれることだ。特に子供に人気が高く、そんな小さな交流の場を提供していたサークルをとり上げる。

ふれあいを求めて

学祭期間には、さまざまな人々とのふれあいがあり、それは、展示を見に行くことによって生まれることもあるなどうこと。それは、そんな小さな交流の場を提供していたサークルをとり上げる。

空間をうまく演出

今回の展示の中で、普通の教室を全く違った部屋へ変化させた団体を紹介したい。

まずは地学研究会のプラネタリウム。製作に一カ月かけた。「和風の作りにしてみる」と部員の高橋雅さんは語った。（西一一〇三）

生物部は全体的に手の込んだ作り。熱帯魚の泳いでいる水槽を出ると、滝のあるジオラマが展示されていた。天井近くから落ちる高い音は、岩の間を流れる川に注ぐ、見事に自然界を表現した作品だった。（西一一三〇六）

預研究会だ。部屋の照明は暗い。壁に飾られたポスターは、ベストセラー、家を題材にした作品。（西一一三〇七）

普段の成果を発揮

大学祭だからと気ぐらう。普段の活動を報告するためだ。無入場への接続、北海道でのカヌー体験、雑内での自転車周遊、北アルプス登頂の風景を絵入な写真を用いて展示していた。

その他の団体

史蹟研究会

山陰地方の史蹟を図・説明の本を出版した。（西一一〇八）

漫画研究会

自作の漫画がいくつか展示してあった。また、部員が作った漫画の作品。（西一一〇九）

近代史研究会

テーマは貧困無政策。そ

カトリック研究会

カトリックとプロテスタントの違いを展示。両派の歴史、聖職者、自殺問、教祭の違いを分かりやすく説明している。

編集後記

今年の大学祭では、四〇以上の団体が展示を行った。内容的にかなり手の込んだ作品が見られ、質の高い作品ばかりだった。

一般の人々が手話に親しめるよう、手話教室を設けた。また、FAXや文字放送等聴覚障害者の生活を便利にする道具を紹介。

手話サークルのそみ

賞品のゆくえ

大学祭期間に行われる数々のコンテスト。「けっこうたくさん、関係なかったっけ」。優勝者には数々の賞品が贈られるのだから。

まずは、好評だった賞品から。Love Loveチュー女性カップル部門優勝した押切有梨子（営一）・福嶋尚子（独三）さんに贈られるのは旅行券二万円。仲良く等分して、換金するそうだ。まだ、ミスコンテストの実施は？

【立看レース・早稲田、各団体の代表者・名が、一斉に疾走。目当ての五分もしないうちに一位の走者が続々と現れ、思い思いの木に駆け寄り、あっという間にレース終了。後は立看を立てるだけだ。しかし、それは後日の話。場面が決まってほっとしたのも束の間、前夜の騒ぎとがらっとしたのも、そのように、いつの間にか正門前から人の姿は消えていた。（穂）

立看レース

学祭中、大学内のメインロードを立看レースが行われた。

十月三〇日、深夜。正門前には一十以上の団体が順番待ちを各自に集まり、夜通し宴会が行われた。陽気にビアー缶頭の者…。毛布にくるまり麻雀を楽しむ者…。その中に走者は何をしているのだろうか。

一見寒づけに焼肉を食べに行って乗りと能楽研究会。走者も目サークル内で腹ごしらえ。放送研究部（GBC）も「休憩を終えるまで、ここにはいない」とのこと。走者は静かに合いの入れようだ。

空を明るくなり、寝ぼけた空気の中、緊張した面持ちの走者ら、二日目の部員が正門へ集合。午前六時、部員の部員応援の中、レースはスタートした。人気が集中する先頭には、五分もしないうちに一位の走者が続々と現れ、思い思いの木に駆け寄り、あっという間にレース終了。

後は立看を立てるだけだ。しかし、それは後日の話。場面が決まってほっとしたのも束の間、前夜の騒ぎとがらっとしたのも、そのように、いつの間にか正門前から人の姿は消えていた。（穂）

サークル探訪

今回は大学祭特集、というとまずは大学祭の知られざる側面を探ってみた。数々のコンテストでの賞品の行方など。大学祭前にかれる立看レースの実態は？賞品に代わって配者が追う。

遊園地券など、女心をくすぐるものばかりだ。

一方、不発だったのは家庭用通信カラオケ。グレーテスト歌謡祭い、三〇〇も見入る姿も見受けられた。パネルの写真が数多くはられていた。（西一一〇四）

天文愛好会では、タロット占いで、部員と一対一で向き合うことができる。一人の部員につき、一日約四十人の客が来るというのだ。

ふれあいを求めて

優勝

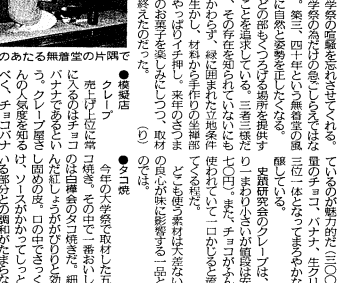
豪華商品の数々

手の込んだ模型

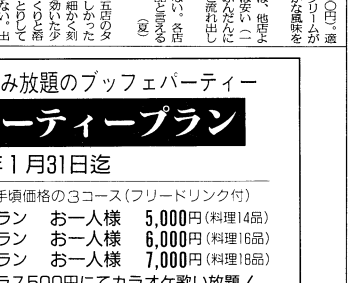
←千葉御茶屋御殿を復元＝史学部

↑伊豆箱根鉄道の模型は本物さながら＝鉄道研究会

↑危険物？いっき取扱いは無縁＝探検部



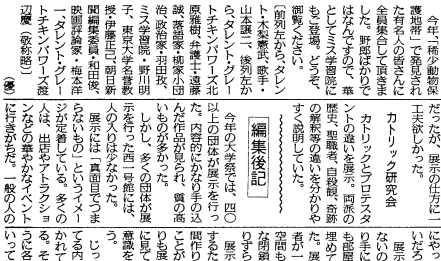
↑シルクロードのルートもこれでバッチリ＝美術史研究会



←笑顔で「あい・う・え・お」＝ゆずみ

←黒いカーテンの中には熱帯魚たちが…＝生物部

Welcome to おぼっちゃまワールド



大学祭 食べ歩き

vol.6

●喫茶・和風喫茶　「喫茶・」と一口にいっても、いろいろなウリがある。味、値段、雰囲気、優しいお婆さんがいるかどうか。今回は、和風喫茶の三田研究部林竹会、茶道部坐禅部を取り上げる。

まず林竹会。ここでは、あんみつ（二五〇円・日本茶付）を注文した。中身は寒天・果物・つぶあんとオーソドックスな客は、甘味を味わいつつ、部員の琴・ピハ・三味の演奏を楽しめる。また一般客の飛び入り参加もあるというおまけつき。

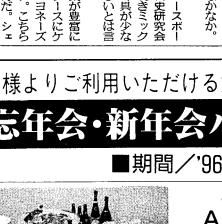
次の茶道部は、抹茶とお菓子で五〇〇円。お菓子は、〝雅〟が特徴の和菓子。

日のあたる無音堂の片隅で

●タコ焼　今年の大学祭で取材した五店のタコ焼き。その中で一番おいしかったのは、チョコのはいった焼きだった。細かく刻まれたチョコが、クレープ屋さん顔負けの味。チョコがかかっていてとってもおいしい。

●模擬店　クレープ　売上げ上位に常に入るのはチョコのはいった焼きだった。細かく刻まれたチョコが、クレープ屋さん顔負けの味。チョコがかかっていてとってもおいしい。

比較商品学



見た目は一級、だが味は…

かつお節がおどるタコ焼き

キャンパスガイド

予約受付中

東京から81分（上越新幹線利用）
越後湯沢 岩原
花梨で過ごす魅力のポイント 6箇条
1. ホテル前からガーラ湯沢・湯沢パーク、NASPAの各スキー場へシャトルバスが直行
2. スキー板・スキーウェアのレンタル完備
3. 越後湯沢駅から無料送迎
4. 全館暖房・衛星放送付TV完備
5. お風呂はサウナ・ジェットバス付
6. 夜はボリュームたっぷりの人気メニュー
平日1泊2食・1日リフト券付 特別価格 10,000円（学習院大の学生証提示のこと）
スキーシーズン到来！

〈お問い合わせ〉
〒949-61 新潟県南魚沼郡湯沢町岩原スキー場
☎0257-87-6666
IWAPPARA 花梨 Resort Hotel Karin
大学新聞社部室にパンフレットがあります　冬季バイトも募集・住み込み・条件面談あり

15名様よりご利用いただける飲み放題のブッフェパーティー
忘年会・新年会パーティープラン
■期間／'96年1月31日迄

お手頃価格の3コース（フリードリンク付）
Aプラン　お一人様　5,000円（料理14品）
Bプラン　お一人様　6,000円（料理16品）
Cプラン　お一人様　7,000円（料理18品）
☆プラス500円にてカラオケ歌い放題／
☆プラス500円にてカクテルもご用意／
※料理、飲物、会場代、税、サービス料を含みます。（2時間迄）
●ご予約・お問合わせは　〈JR山手線・目白駅徒歩1分〉
ザ リッチモンド ホテル 東京
〒171 東京都豊島区目白3-5-14 TEL(03)3565-4111

学習院 SPORTS

二十年ぶり全国優勝
水上スキー部男子

本学水上スキー部男子が、全国優勝を決めた。十月十四、十五日に茨城県鹿島MGマリーナで行われた第二十四回新人戦。強豪・慶應義塾大学を破り二十年ぶりに優勝カップを手に入れた。

左から森信航選手（政二）、溝渕真人選手（法二）
深澤健太郎選手（法二）、山田大三郎選手（済一）
＝利根川土手にて（写真提供　水上スキー部）

名大学の一、二年が出場する新人戦は、スラローム、トリックジャンプの三種目を争われる。

初日の十四日にスラロームとトリックが行われた。スラロームはスキーの回転競技に似ている。ボートに先導されながらスキーヤーがターン（浮き）を回っていき、回リックは「ターン数で成績を争う。昨年、二年生の中で個人優勝した溝渕選手、今年は肩の故障を抱えて出場した、初選二年マイルで全万イを回ってクリア。続く三十二マイルでの五ターンを回っとする作年度優勝校、慶大ただ、「自分の成績には満足していない」と溝渕選手と言うものの、初選二年マイルを組みあわせての総合成績で、リックというレース制限に加えて、「風が強くて怖いから手も出なかった」と悔恋選手は語った。

続くトリック競技、往復20秒間すっフフィギュアスケートのやっに約五十種の技を競っていて、ジャンプを得意とする作年度優勝校、慶大の追い上げが気になる。しかし、溝渕選手が今まで度も勝てなかった慶大の柳井選手を破り、二十七ポイントを獲得し、総合成績で、初選二年生の中で最高の成績を収め、貫禄した。

練習で一度成功したが、手は届かず。

初日、二つの競技で本学のいたに続き、慶大の選手が取り返すというチームワークの良さが今回の優勝を導いたといっ。また、山田選手は最終日のジャンプにかかっている。

一人がミスをすれば次の選手が取り返すというチームワークの良さが今回の優勝を導いたといっ。また、山田選手は最終日のジャンプにかかっている。

全日本代表としてブラジルへ
ソフトボール部女子

「まさか自分選が日本代表として参加出来るなんて思わなかったので、夢のような話だと思いました」と亜田あゆみ選手（仏四）は語る。来年は、日本とブラジルの国交樹立周年にあたる。それを記念して今年の十二月一十日から来年の一月五日までソフトボールの親善試合が行われる。そのための全日本大学女選抜ブラジル遠征チームに、本学ソフトボール部女子から2名が参加することになった。

しかし、日本代表の重みや、費用がかかることなどの問題を考えて悩み、全員で話し合うまでには時間がかかった。「もっとこんな機会は二度とないし、四年間の最後にどうしても出たいと思ったんです」と亜田みき主将（営四）。他以上の練習が待っているんですよ」と亜田主将は苦笑いする。

ブラジルでは、七試合ある親善試合だけでなく、ホームスティにより国際交流をはかる予定だ。亜田選手は、「新しい発見があるそう」と眼を輝かせる。国民性が違う人達とソフトボールが出来ることはもちろん、そういう大事な交流出来ることも楽しみ」と目を輝かせる。

「まだみんなボルトガル語も全然強くないんですけど」と、亜田選手は、「新しい発見があるそう」と眼を輝かせる。国民性が違う人達とソフトボールが出来ることはもちろん、そういう大事な交流出来ることも楽しみ」と目を輝かせる。

全員四年生なのにブランクはないのだろうか？　幸い八人とも引退したのは十一月の初め。ブランクによる練習不足の心配はない。「でも、これからさらに、今までとも頑張っていきたいです」と亜田主将は意気込んでいた。（慶）

（後方左より）林久仁子選手（済四）、豊田主将、林真理子選手（営四）、（前方左より）奥元真理選手（英四）、坪内澄絵選手（英四）、津田選手＝本学北グラウンドにて

学生の協力を
'95四大戦総括

今年で四十五回目を迎えた関西大学連盟親授大会（四大戦）は、学習院大学の十六連覇で幕を閉じた。しかしさまざまな課題が残った。

○危うい学習院の連覇

毎年一般種目が恵まれ少しくない学習院。今年も9種目の親授ある中で優勝したのが3親授しかない。このままでは学習院の連覇を危惧せざるを得ない。

連盟部部常任委員会（連常）の河島慶太委員長（営四）は、「学大会の優勝者が四大戦に出場するという意識が低い」と述べている。

バレーボールやサッカーなど、四大戦出場者を目標として学内大会に参加する団体がある一方、学内大会が行われ、四大戦は出場しないという参加者もいる。

四大戦に出場し勝つ、という意識が、学内大会の参加者にもめられる。

○不完全燃焼の駅伝

今年は正式種目駅伝の不振が目立った。一昨年男女とも優勝していた種目での、男子3位、女子2位、満足できる結果ではない。

この理由として、他大学がチャンスを活かせず、高校時代選手として出場を依頼するなど、学内選手も育てていた。それに対し、学習院の学内選考は、スキー部が主催をしており、出場選手もスキー部中心となってくる。これらは、他にも運いコンナーを発掘するために、連常の協力も必要になるなどした。

○実力差のある四大学

学習院の連覇の大きな原動力となっているのが、運動部間における正式種目と、正式種目と大差がついて、他大学の追い上げもままならない。また、他大学の部が存在しないため、三大戦になるなどを得ない親授がある。

そのため、一般種目の得点法を変えるなどの案も出されている。だが、四大学すべての同意を得られないと変えることができないため、実施することができない。

四大戦を改革するためには、連常の力は必ずしも十分ではない。しかし、それだけでは達成できない。多くの学生の協力が不可欠となる。

大学祭と並ぶ学校行事であるにもかかわらず、四大戦は学生にとって疎視されてきたところがある。実際に親授に参加するもいない、応援するだけでもいい。四大戦改革は、学生一人一人の手にかかっている。

めざせ17連覇＝表彰式

ダイビング
無念！ V15ならず

十月十日、中央大学（多摩校舎）屋外プールにおいて関東学生選抜選手リリーグ戦ダイビング部は、15連覇を果たすべく奮闘しかし、学ダイビング部は、15連覇ルといった装備をすること、手を使わないとの2つがきな相違点である。

この大会は、ダイビング部にとって唯一の親授会。九月より本格的な練習に入り、冷たい、眠い朝練に耐えながら努力を続けてきた。その甲斐あって、総合優勝で迎えたが、個々人の成績には目を見張るものがあった。男子高度選手（史二）が男子高度選手（史二）が、女子高度選手（法二）が、女子板飛選手。優勝すべてで1位と気を吐いた。

この種目もまた、水中に飛ぶ種目だけはダイビング各者負い、耐えながら努力を続けてきた。その甲斐あって、総合優勝で迎えたが、個々人の成績には目を見張るものがあった。男子高度選手（史二）が男子四〇〇点、女子四〇〇点、男子板飛選手（法二）が、女子板飛選手。優勝は、新人女子二〇〇点の三種目。

今回、優勝を優勝できなかったことは、選手たちの責任ではない。

この種目は、水泳という種目だけはダイビングと違い、ウェットスーツやシュノーケルを使用することが出来ないことの2つがきな相違点である。

ただ、潜水